



出典：岡山県ホームページ

Q 岡山県地域公共交通ビジョンに対する市の見解はどうか。
A 策定の中で実施された調査では、県内の広域的な移動は主に鉄道が担っていると考えられている。本市にとって、JR伯備線が市民の通勤、買い物と市内を訪れる観光客の移動手段として重要なインフラであることを再認識した。

公共交通について

林野火災対策について



川上博司 議員

山火事を起こさず、起さず



▲動画視聴はこちらから

女性が活躍できる環境について



小黒ゆかり 議員

誰もが輝ける高梁市の実現に向けて



▲動画視聴はこちらから

Q 女性の登用が進むほど、家庭内での意識改革が伴わなければ本当の意味での働きやすさは実現しないと考えるがどうか。
A 女性にとっても男性にとっても働きやすい環境を整えていくためには、共働き、共育て、さらには共家事といった視点も取り入れながら、仕事と家庭の両立支援、男女双方の意識改革、理解促進の取り組みを進めていく必要があると考えている。

コンサルタントへの委託について

市民の立場からは、委託の

市職員の窓口対応について

Q 窓口は市役所の顔である。その対応は市民の信頼に込められているのか。
A 職員一人一人の意識向上とモチベーションの向上を図り、より質の高い窓口サービスが市民の皆様方へ提供できるようにしていく。

地域委員制度の再編と持続可能性の確保について



川上雅美 議員

各種委員の負担軽減について

Q 制度の検証や配置基準の見直し及び今までの高梁市地域支援検討会議での協議について問う。
A 町内会の小規模化が進む中で、活動の形骸化、役職の必要性を疑問視する意見を市長が地域のまちづくり懇談会などで直接聞いています。高梁市地域支援検討会議において、委員の負担軽減や制度の見直しについて検討を進めており、役割の見直しや活動の簡素化などを提案している。また、町内会長や委員へのアンケートでは大きな隔たりがある。現在は、地域コミュニティの代表者の方にもアンケートをお願いしており、その結果をもとに、地域の实情に

合った無理のない持続可能な制度へと見直しを進めていく。
Q 愛育・栄養委員の統合や再編の必要性について、市としてどのように認識しているのか。
A 愛育・栄養委員も、それぞれ必要なボランティアと考えている。2つの委員は、選出母体、役割がそれぞれ異なる部分がある。統合するとかえって負担が増すことも懸念をしている。統合にはハードルがある。しかしながら、委員の選出に苦慮している地区があるというのにも認識している。同じ人が何度も委員を受けるといのは、不本意ではないかと思っている。



▲動画視聴はこちらから

行財政改革を効率的に進めるべき



榎隆宏 議員

行財政改革について

Q 3年間で5億円の収支不足を補う「行財政改革強化集中プラン」の事業精査において、数値的な根拠や期限を明示する仕組みが必要だ。新規事業も原則3年で検証とするなど客観的な基準を共有することで、職員の負担軽減と迅速な意思決定につながるものと考えている。行革の着実な推進により、現在見直しが見られている手当の早期復活も見えてくるのではないかと。
A 主要な案件については市長自らヒアリングを行い、客観的データに基づき精査している。3年ごとの事業を評価するルールも設けている。今後も市民

林業の推進について

Q 市の面積の約8割を占める山林整備のため、新規林業従事者の育成支援を強化すべきだ。市有林を活用した研修や補助金の具体的な手立ては考えられないか。
A 県や森林組合と連携した研修を紹介し、市有林での学習機会も検討していく。今後も関係機関と協力し、担い手確保に努める。



▲動画視聴はこちらから